

冬場の最需要期に向けて 出荷の手順を確認



▲ 職員から出荷規格の説明を受ける参加者

あきた白神ねぎの収穫・出荷最盛期を前に、出荷規格などの確認を行うため、JAねぎ部会（山谷初男部会長）は秋冬ねぎ目揃いを能代市工業団地交流会館で開催しました。

はじめに山谷初男部会長が「今年も天候不順などによる、生育の遅れや病害虫の発生で、収量に影響が出ている。だからこそ、高品質ねぎの出荷を心掛けて欲しい」と挨拶。また市場関係者は「厳しい状況が続いているが、冬場の最需要期へ向けて、収穫・出荷に頑張ってもらいたい」と話しました。

その後担当者から、出荷規格や今後の病害虫防除などの説明が行われ、参加者は出荷の手順を確認しました。

名古屋市中央卸売市場で地元食材PR 『ふれあい市場まつり』



▲ 購入を待ちわびる人で長蛇の列が出来た

JAでは11月13日、名古屋市中央卸売市場で開かれた『ふれあい市場まつり』に参加し、収穫期を迎えたあきた白神ねぎや、新米あきたこまちを使用した、きりたんぼ鍋などを販売しました。

当JAの平成22年度における、名古屋市中央卸売市場への販売高は約9千万円で、近年販売高が伸びている市場です。今後さらなる販売展開が見込まれるため、JAでは毎年『ふれあい市場まつり』に参加し、管内農産物のPRを行っています。

当日は用意した食材がほぼ完売したほか、購入した人々も、あきた白神産食材の品質の良さに驚いていました。

肥料と農薬の知識を深める JAで勉強会を開催



▲ 担当者の説明に聞き入る参加者

JAでは肥料と農薬の適正使用について、広く組合員に伝えることを目的に、11月9日から22日まで、各地区で肥料・農薬勉強会を開催しました。

このうち、14日に能代市文化会館で開かれた勉強会には、生産者約40名が参加。肥料と農薬について説明が行われたほか、育苗箱全量施肥専用『苗箱まかせ』の栽培法についても紹介されました。

参加者らは説明を受けた後、自分たちの圃場に適した肥料や農薬について、JAや振興普及課職員に質問を行い、来年の栽培に向けて知識を深めていました。

春に植えた苗の生長を実感 向能代小学校児童らが稲刈り体験



▲ 圃場がけを行う児童と青年部員

JA青年部のしろ北支部は向能代小学校と協力して、子どもたちに収穫の喜びを味わってもらおうと、5年生70人を対象に稲刈り体験を行いました。

向能代小学校では毎年、5年生が田植えから稲刈りまでを体験する総合学習を実施して、食農教育に取り組んでいます。

青年部員の説明を受けた児童らは、さっそく稲刈りに挑戦。春に植えた苗が、黄金色の稲穂に生長した姿に感動しながら、児童らは1束1束丁寧に刈り取っていました。

このあと刈り取られた稲などを使い、小学校では『究極のおにぎりづくり』と題して、児童らが思い思いのおにぎりを作りました。

